

平成27年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：櫻井治男・板井正斉

分野：歴史・伝統文化・異文化、こども・子育て・教育・生涯、健康・福祉、地域づくり・公共・環境、人材育成等の活動、連携協定に基づく事業（ ）、その他（ ）

項目名	内 容
計画名	『伊勢志摩百物語－麗しき島々－』の制作
実施期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日
活動の目的と計画	本プロジェクトは、平成24年4月よりスタートした本学教職員・学生、神宮職員、一般市民から構成される自主勉強グループである「松木時彦著『神都百物語を読む会』」で得た知見とともに、伊勢だけではなく志摩地域も含めて、テーマ設定のもと、地域の名所・旧跡・文化資産・自然資産を取り上げ、子どもから大人まで、また個人・家族が地域探訪を行う上での情報冊子の編集・刊行を目的とする。この作成作業を通して、特に本学学生が地域へでかけ、地域を発見し、その成果をアウトプットすることで、大学と地域との関係づくりにかかわる契機となることを期待する。計画は2か年とし、初年度は、「島」を中心テーマとし、伊勢志摩に点在する多くの島々のなかから、10余か所を選び、現地調査を踏まえて原稿を作成し冊子を発行のうえ、広く配布し、「おかげキャンパス」の広報につとめる。「百物語」の「百」は数多くという意味として捉えている。
活動内容 と 実績・成果	<p>活動内容</p> <p>①対象となる島々を選ぶための勉強会の開催。 ②現地調査（合同調査及びチーム調査：7・8・10月）。 ③個別追加調査（担当者が随時調査）。 ④『伊勢志摩百物語－麗しき島々－』原稿執筆、伊勢文化舎の協力による編集、制作。 ⑤伊勢文化舎編集発行にかかる『ばるく伊勢志摩』への原稿提供。</p> <p>実績・成果</p> <p>『伊勢志摩百物語－麗しき島々－』（カラー版28頁、平成28年3月、皇學館大学伊勢志摩百物語編集委員会編刊）。</p>
参加者	申請者も含めて、氏名、所属（部局、職名）を明記してください。 本学教員：櫻井治男（文学部特別教授）・代表／板井正斉（教育開発センター准教授）／ 本学学生：足立涼（3神）・伊藤りか（3神）佐伯篤史（3神）・佐伯枝里子（3神）・ 新田恵三（3神）・佐藤祥（1神）・中野裕介（大学院M1）／中村賢一（伊勢文化舎代表）
今後の活動	平成28年度は、本年度の活動をふまえ、『伊勢志摩百物語－親しき浜と磯－』（仮題）の刊行を予定しており、継続して支援を希望する。
記録	  

平成27年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書


教員名：岡野 裕行
分野：地域づくり・公共・環境

項目名	内 容
計画名	本を活用した伊勢市河崎地区でのコミュニティづくり：一箱古本市とビブリオバトルの開催
実施期間	平成27年10月27日（日）
活動の目的と計画	<p>活動の目的</p> <p>①本を話題の中心に据えながら、伊勢に住む本好きな人たち同士のコミュニティづくりを行う。 ②「伊勢のだいご河崎商人市」と開催日を連動させることで、地元のお祭りに新しい趣向をもたらす。</p> <p>活動の計画</p> <p>①河崎川の駅を会場として一箱古本市を開催し、参加者に古本販売と人との交流をするための機会提供を行う。 ②本学ビブリオバトルサークル「ビブロフィリア」が、ビブリオバトルのエキシビションゲームを提供する。 ③一箱古本市の開催支援と会場運営については、指導教員（岡野）の3年次のゼミ生が担当する。 ④河崎商人市の事務局とも情報交換し、相互にメリットのある形での事前の集客・広報戦略を行う。 ⑤イベント告知用SNSアカウントを取得し、開催情報を随時ウェブ上でも発信していく。 ⑥開催日当日の写真撮影・記録は、皇學館大学写真部が担当する。</p>
活動内容 と 実績・成果	<p>活動内容</p> <p>①「人と本、人と人をつなぐコミュニティづくり」のイベントとして、ここ数年の間に全国各地に広まっている一箱古本市とビブリオバトルの二つの活動を、伊勢市河崎地区を舞台として開催する。 ②毎年開催されている河崎商人市と同日に実施することで、集客・広報面での相乗効果をもたらす。 ※一箱古本市は、出店者がそれぞれ一箱分の古本を持ち寄り、古本の販売を通じて売り手と買い手がお互いに交流を深めるイベントで、平成17年に東京・谷根千で始まって以降、全国各地に活動の輪が広がっている。 ※三重県内における一箱古本市の実施例は、平成26年6月にkalasbooksが企画した津市「ホンツツキ」という古本イベントで実施されたものが初であり、本計画は県内でも2番目の事例である。 ※「ホンツツキ」には、本学ビブリオバトルサークル「ビブロフィリア」も参加し、ビブリオバトルのエキシビションゲームを提供している。 ※参考文献 ●谷口忠大著『ビブリオバトル』（文藝春秋、平成25年） ●南陀楼綾繁著『一箱古本市の歩きかた』（光文社、平成21年） ●カラスブックス「ホンツツキ」http://www.kalasbook.com/event-main.html</p> <p>実績・成果</p> <p>①「伊勢河崎一箱古本市」を開催したことで、本を話題の中心としたコミュニティをつくることができた。 ②「ビブリオバトル@伊勢河崎」を開催したことで、本の書評を通じたコミュニケーションの実践例を示した。 ③本に触れながら河崎地区を歩いてもらうことで、参加者に地元の文化を再発見してもらうことができた。</p>
参加者	<p>申請者も含めて、氏名、所属（部局、職名）を明記してください。</p> <p>①岡野 裕行（国文学科准教授） ②石原由里加（国文学科3年） ③岩崎 茄菜（国文学科3年） ④浦口 悠（国文学科3年） ⑤岡野ひかり（国文学科3年） ⑥奥野 綾香（国文学科3年） ⑦清水 良真（国文学科3年） ⑧野田美早貴（国文学科3年） ⑨和玉 汐梨（国文学科3年） ⑩相賀 仁至（国史学科3年） ⑪井原 美琴（国史学科3年） ⑫竹下 七歩（国文学科2年） ⑬渡部 美帆（国文学科2年） ⑭中川 心路（国文学科1年） ⑮藤井 央子（国文学科1年） ⑯藤田佳保里（国文学科1年） ⑰坂井 晴輝（国史学科1年）</p>
今後の活動	<p>①初めての「一箱古本市」の開催となったが、参加者からは「とても楽しかった」「また開催してください」という感想を多くいただいた。次年度以降も、継続して開催していきたい。 ②初回の開催が終わったことで、運営や進行における課題や反省点が出てきた。そのため、継続的な開催がスムーズにできるように、運営マニュアルなどの整備を進めたい。</p>
記録	

平成27年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：クリストファー・メイヨー

分野：歴史・伝統文化・異文化、こども・子育て・教育・生涯、健康・福祉、地域づくり・公共・環境、人材育成等の活動、連携協定に基づく事業（伊勢）、その他（）

項目名	内 容
計画名	異文化交流と伊勢
実施期間	平成27年 4月 28日（火）～平成 27年 12月 22日（火）
活動の目的と計画	<p>I 様々な人種、年代、職業の方々との国際的な交流を通して、それぞれが持っている可能性を広げることを目指す。</p> <p>II 多様な価値観を認めることができる寛容さを身につける。</p> <p>III 相互に尊重しあえる、文化的背景を越えた仲間づくり (GLOBAL NETWORK) を目指す。</p>
活動内容 と 実績・成果	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で国際交流や地域交流を中心とする活動を展開する。 ・英語を用いた異文化交流。具体的には、日本文化を発信するために知識を身につけ、伊勢・皇學館大学の案内アプリを市民、学部生、留学生、他大学の留学生や外国人などが協力して開発中です。 ・英語のネイティブスピーカーから発音や発話力といったことを学び、英語力を向上する。 <p>実績・成果</p> <p>・様々な地域や年代、職種の方との国際的な交流を等して、異文化を理解するだけでなく、ディスカッションなどによって実践的なインタラクションを行うことができた。伊勢市などの地域との連携を展開していくことで、大学のみならず、伊勢のPR活動にも効果を発揮できた。こうした活動が学生の意識を変え、海外留学や語学研修、インターンシップなどのグローバル人材育成につながることもありました。</p>
参加者	<p>申請者も含めて、氏名、所属（部局、職名）を明記してください。</p> <p>皇學館大学文学部コミュニケーション学科の北川 結香（4年）、上野 優太（4年）、辻岡 夕起子（3年）、奥田 博紀（3年）、堀内 洋介（3年）</p>
今後の活動	<p>28年度に引き続き活動を継続する予定です。伊勢志摩サミットに間に合うようにアプリを完成して、今までの成果に踏まえて、これからよりたくさん学生と外国人の交流を図ることに動力していきます。</p>
記録	

平成27年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：板井正斉・近藤玲介・千田良仁・池山敦・岡野裕行・石原壮一郎

分野：歴史・伝統文化・異文化、その他（COC事業）

項目名	内 容
計画名	伊勢うどん屋台で地域の魅力を伝えあうプロジェクト やたい・わ <small>伊勢うどんのようにやわらかく伊勢志摩の魅力を語りあう場をデザインします。</small>
実施期間	平成27年 6月 1日（月）～平成 28年 3月 31日（木）
活動の目的と計画	<p>【目的】本プロジェクトは、伊勢志摩の魅力を楽しみながら主体的に学びあうことを目的に、これまでにないプログラムを教員・学生・地域と共にデザインします。具体的には、最近注目をされなおしている「伊勢うどん」をテーマにして、そのたまり醤油のような深さを持つ歴史的文化的背景を踏まえながら①、うどんのように柔らかい創造力で新たな伊勢うどん専用組立式屋台をデザイン・制作します②。そして勉強会および屋台制作を通じて得た熱々の成果を、大学祭や地域イベントなどで発表・提供します③④。</p> <p>【活動内容・計画】本プロジェクトは、以下4つの活動内容を計画的に進めていきます。①定期的に「伊勢うどん」勉強会（仮称）を開き、未だ十分に明らかにされていない歴史的文化的背景や、伊勢うどんをめぐる現状について、ゲストを招くことや、現地学習などを通じて学びます。[毎月]②①を踏まえながら、伊勢志摩の新たな魅力として伊勢うどん専用組立式屋台をデザイン・制作します。[8-10月]</p>
活動内容 と 実績・成果	<p>活動内容</p> <p>当初の計画から、関係者の事情により、大幅に遅れてスタートをしたが、その後は勉強会を重ね、2回のオープンイベントを実施しながら、参加型による伊勢うどん屋台のデザイン・制作を行った。</p> <p>10/20（火）第1回勉強会「伊勢うどんについて」 12/1（火）第2回勉強会「屋台の定義について」 1/26（火）オープンイベント「取り急ぎ、「どこでも伊勢うどん」講座 in Kogakkan」 2/10（水）第3回勉強会「屋台のデザイン検討」 2/26（金）第4回勉強会「屋台のデザイン検討」 3/29（火）オープンイベント「屋台ぬりぬりワーク・ショップ」</p> <p>実績・成果</p> <p>（1）勉強会 伊勢うどんについては、石原壮一郎氏（伊勢商工会議所公認伊勢うどん大使）を中心に歴史や現状について、学びを深めた。屋台については、廣垣大毅（廣垣工務店）・湯谷紘介（YUTANI DESIGN）を中心に、コンセプトをまとめ、あわせて伊勢の伝統工法などについても学ぶことができた。</p> <p>（2）オープンイベント 1/26のイベントでは、勉強会での内容を踏まえて、伊勢うどん屋台のモックを披露し、コンセプトの説明と、意見交換を行った。参加者14名（内、学生6名、報道関係者2名）。3/29のイベントでは、屋台の部材への塗装・組立を参加者で行う。</p> <p>（3）伊勢うどん屋台</p>
参加者	<p>申請者も含めて、氏名、所属（部局、職名）を明記してください。</p> <p>板井正斉（教育開発センター准教授）・近藤玲介（教育開発センター准教授）・千田良仁（教育開発センター准教授）・池山敦（教育開発センター助教）・岡野裕行（文学部国文学科准教授）・石原壮一郎（非常勤講師）・廣垣大毅（廣垣工務店）・湯谷紘介（YUTANI DESIGN）他、学生6名、報道関係者2名。</p>
今後の活動	<p>（1）伊勢うどん屋台の活用 各種イベントなどへ、伊勢うどん屋台を出店し、伊勢うどんを媒介にした伊勢志摩コミュニケーションの検証を行いたい。</p> <p>（2）伊勢うどん屋台への伝統工法の活用 勉強会を通じて、伊勢にかつて存在していた伝統工法（ヌレガラス）があり、伊勢うどん屋台のコンセプトにも合致することから一部部材の塗装法として取り入れることを検討した。しかしながら、工法そのものを理解している人材がすでに存在しないため、断念した経緯がある。今後、勉強会を継続しながら、伝統工法の復活と伊勢うどん屋台への活用を検討したい。また、伊勢うどんの材料である小麦栽培などについても検討したい。</p>
記録	<p>活動の記録は、下記URLをご参照ください。</p> <p>伊勢うどん屋台プロジェクトFaceBookページ https://www.facebook.com/伊勢うどん屋台プロジェクト-830571893739002/</p> <p>1/26 オープンイベント「取り急ぎ、「どこでも伊勢うどん」講座 in Kogakkan」 https://www.facebook.com/events/1648500625388351/</p> <p>3/29 オープンイベント「屋台ぬりぬりワーク・ショップ」 https://www.facebook.com/events/989657564446906/</p>